

## 声で試合に勝てる？

「次の試合では、まず声を出して……。」  
「今日は声で相手に負けていたので、相手に負けない大きな声を出して……。」

私が野球部を率いて試合に臨んでいた時ですから、ずいぶん前の話です。試合で負けた後、選手一人一人に語らせると、判で押したように、このように話す者が多くいました。

それを聞いて、私は次のように言いました。  
「試合は声で勝つわけではない。しかし、声が出ないようなチームでは勝てない。」

敗因は声ではありません。自分たちに不十分な点があったからです。相手を上回れなかった部分があるから負けるわけで、それを声のせいにしていても、力がつくどころか、相手との差はどんどん大きくなっていきます。

本日一年A組の朝の会を少し参観しました。担任のK教諭は生徒たちの切り替えの早さをタイムリーに認めながら、生徒たちがよりレベルアップするように導こうとしていました。

「『しっかり聞く』とはどうやって聞くことかな。……そうか、相手の方を見て聞くことか……」（黒板の前を右に左に行ったり来たりして話すK教諭を目で追っている生徒たちを確かめながら）「おっ、みんな（私を）見てくれてるね。（これが）しっかり聞いているということだね。」

生徒たちがよく使う「しっかり」や「ちゃんと」という言葉。K教諭は彼らがそれを具体的な行動や姿で出すことを指導しながら、「聞く」ことに対する生徒たちの意識や思いがより高まりつつあることを感じたようです。

一年A組の生徒は、K教諭の話を積極的に吸収しようとしていました。後ろから見ていた私には、行動や姿といった上辺だけがそろっているのではなく、意識や思いといった最も大切なものが皆同じ方向を向いているような気がしました。

これまでの学校生活では、先の野球の例のようなことが多くありました。「家庭学習を○時間以上やる」「自主学習ノートを△ページ以上やる」「テスト前にワーク等を提出する」「テストで□点以上を採る」……形を求めて、本質からかけ離れたがんばりでは、力がつくとは思えません。「声を出したら勝てる」とは言えないのと同じだと私は思います。

大切なのは、やはり意識や思いですね。一年A組のように、行動と姿に加え、意識や思いが同じ方向を向いていると、克服の仕方がみつきり、力が徐々についていきます。逆に、力がつけば、勉強時間やノートのページ数、提出や点数は軽くクリアできることでしよう。「この問題を解けるように頑張っていたら、知らない間に二時間経っていた」というのが理想的ですね。